

海外安全対策情報（平成27年4月～6月）

1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

（1）5月5日夜、ケビリ県エル・ファウアールで石油会社による雇用や地域開発を要求する集団が警察署を投石などで襲撃し、治安部隊は催涙ガスを使用して対抗しました。同月9日にも衝突が再発し、デモ隊が国家警備隊建物に放火するなどしたため公共施設等保護のため、軍部隊が出動する事態となりました。内務省発表によれば、投石や猟銃を使って国家警備隊建物に侵入しようとしたデモ隊との衝突で警察官6名が負傷したとのことです。

（2）6月2日、ケビリ県ドゥーズ北及び南地区で、石油会社に対して雇用や開発を要求するデモ隊が役所等を襲撃したり、タイヤを燃やしたりしたため、治安部隊が催涙ガスで対抗しました。同衝突は同月4日に一旦は沈静化しましたが、翌5日、暴徒化したデモ隊が国家警備隊建物や警察署、警察車両等に放火するなどしたため、同地域に夜間外出禁止令が発出されました。同禁止令は、同月16日に解除されています。

（3）6月16日早朝、ザグアン県エル・ファハスの踏切で、一時停止せず進入したトラックとチュニス行き国鉄列車（ル・ケフ＝チュニス間）が衝突し、18名が死亡、107名が負傷しました。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

邦人が被害に遭遇した凶悪犯罪事件は認知していません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

（1）4月7日、カスリン県スベイトラとシディ・ブジッド県ジェルマの間にあるムギラ山近くで、テロ・グループが軍トラックを襲撃し、兵士5名が死亡、複数が負傷しました。国防省によれば、同テロ事件に関与した疑いで、現場付近にいた13人が逮捕されました。

（2）5月25日朝9時過ぎ、チュニス市ブシューシャ地区にある兵舎内で兵士1名が銃を乱射し、兵士8名が死亡、10名が負傷しました。銃を乱射した兵士は現場で射殺されました。

（3）6月15日未明、シディ・ブジッド県ビール・ラハフェイで検問を行っていた国家警備隊をテロリストが襲撃し、隊員2名が死亡した他、同日同県シディ・アリ・ベン・アウンで治安部隊と車に乗ったテロリストとの間で銃撃戦が発生し、隊員1名とテロリスト1名が死亡、複数のテロリスト、警備隊員、近くにいた市民が負傷しました。

（4）6月26日午後、沿岸部のリゾート地であるスース県スースにおいて、自動小銃などで武装したテロリストが高級リゾートホテルを襲撃する事件が発生し、外国人38名が死亡、39名が負傷しました。実行犯は、現場において国家警察隊により射殺されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

6 日本企業の安全に関する諸問題

日本企業を標的とした事例はありませんが、2015年3月、日本人観光客が犠牲となったバルドー国立博物館襲撃事件や同年6月のスース県スースにおける高級リゾートホテル襲撃事件など、外国人を直接のターゲットとした大規模なテロ事件が立て続けに発生しています。こうした状況に鑑みれば、今後も外国人・外国権益を標的としたテロ・誘拐事件が発生する可能性は否定できませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要となります。

また、外務省ホームページ等で「スポット情報」、「危険情報」等を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いします。